

ビジネス・プロセス改善の推進

SEC エンタプライズ系プロジェクト 研究員

倉持 俊之 室谷 隆 森下 哲成 大和田 裕

ビジネス・プロセス改善領域ではプロセス共有化WGとプロセス改善WGの2つのワーキンググループで活動してきた。プロセス共有化WGではソフトウェア開発の標準プロセスを検討し、実際に活動しているプロセスをいかに改善し継続するかの検討を行った。プロセス共有化WGは「共通フレーム2013」の発刊に向けて改訂、追記部分の作成、レビューを中心に活動した。プロセス改善WGでは、SPEAK-IPAとSPINA³CH両方を使用したプロセス改善方法を、実証実験の形で実施した。また2011年度に手がけたプロセス改善推進者教育のコンテンツやカリキュラムは、セミナー開催を通じブラッシュアップを図った。これらの成果や改訂されたSPEAK-IPA、SPINA³CHを総合的なプロセス改善のパッケージとして提供した。また2つのWGは共に、国際標準をベースにした活動を行ってきたが、2012年度は更にワーキンググループの成果を国際標準に提案する活動も行った。

1 プロセス共有化WG

プロセス共有化WGは、既存のソフトウェア開発の標準プロセスである「共通フレーム2007第2版」を大幅改訂し「共通フレーム2013」として3月4日に刊行した。サブタイトルとして「経営者、業務部門とともに取組む「使える」システムの実現」とあるように、事業（ビジネス）に寄与するシステムを構築するためには何が重要なかを

検討し、作成してきた。「共通フレーム2007」からの大きな変更点は以下の3点である。

- ・ ベースとなるソフトウェア・ライフサイクル・プロセスの国際規格（JIS規格）をJIS X 0160:1995（追補1:2007を含む）からJIS X 0160:2012へ変更。
- ・ システム開発のプロセスと、ソフトウェア開発のプロセスを分離し、明確化。
- ・ システム・ソフトウェア開発のプロセスと運用・サー

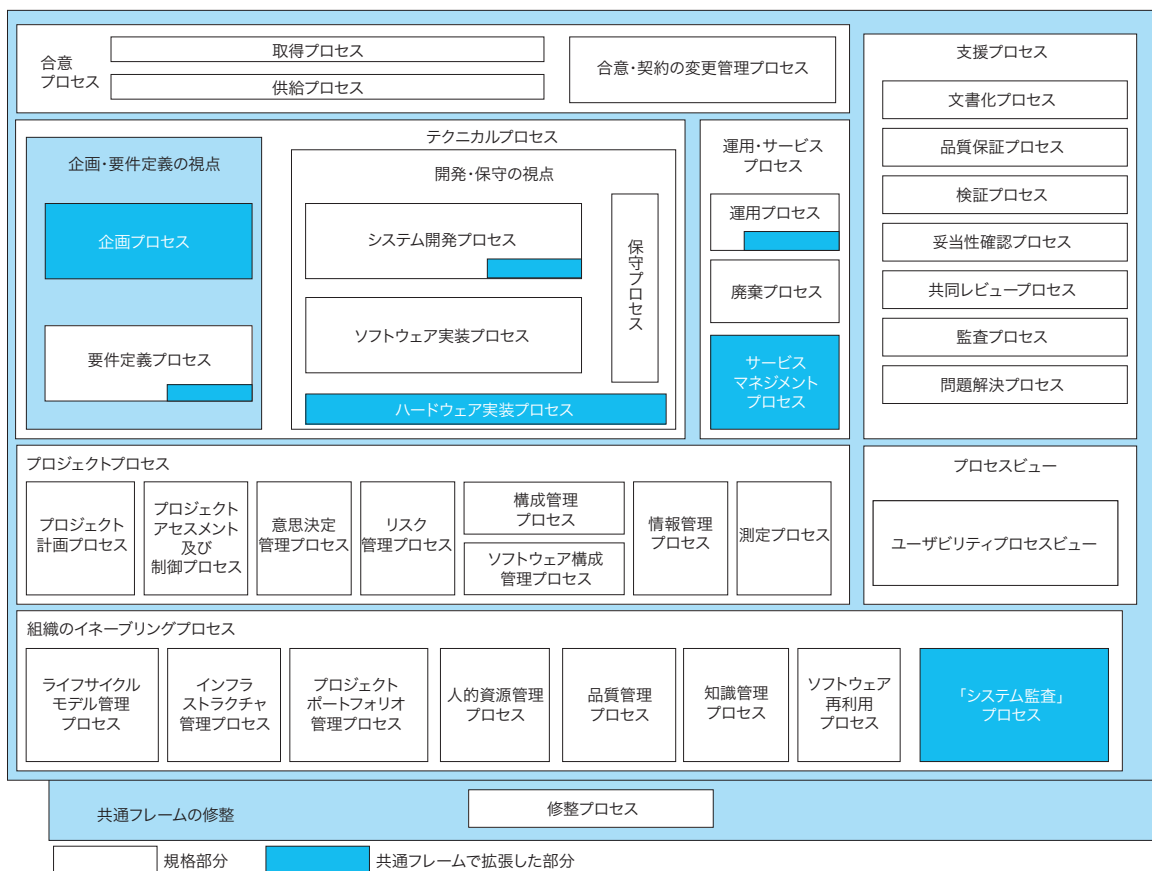


図1 共通フレーム2013体系図

ビスのプロセスを連携。(運用・サービスの視点を要件に取り入れる)

「共通フレーム 2013」の改訂部分の詳細や解説は SEC ジャーナル 32 号に詳しく説明しているので、参照されたい。

2 プロセス改善 WG

(1) 活動概要

プロセス改善 WG は、IT 利活用及びシステム開発に係る組織能力向上をねらいとして、プロセス改善手法について研究し、その成果の普及を促進してきた。2006 年 1 月にプロセス改善部会として発足して以来、プロセス改善ナビゲーションガイド<なぜなに編><プロセス診断活用編><ベストプラクティス編><虎の巻編>の提供とプロセス診断ツール<SPEAK-IPA>、開発技術者自らが改善に取り組むツール<SPINA³CH (スピナッチキューブ) 自律改善メソッド>の公開を行ってきた。

これまでの実証実験での実績を踏まえ、プロセス改善を正しく理解し、ビジネスと改善活動の関係性を明確にして推進するためには、推進できる人材を増やすことが必要と考えた。2012 年度は、プロセス改善活動の推進を担う人向けに、<プロセス改善活用ガイド>を作成し、推進者育成で利用してきた教材と併せて公開した。(図 2 参照)

プロセス改善は、組織の状況によりトップダウンアプローチとボトムアップアプローチを的確に活用することが肝要と考えられる。そこで国際標準 ISO/IEC 15504 (プロセスアセスメント) に準拠したアセスメントモデル SPEAK-IPA と開発現場の課題解決から始める SPINA³CH 自律改善メソッド (図 3 参照) について、公開後の実証実験から得られた知見をもとに両ツールの改良を行い、ツールを活用した教材を用意し、普及・啓発を行った。

(2) SPEAK-IPA の改訂骨子

SPEAK-IPA では、実際にアセスメントモデルを使用して、

分類	名称	
	プロセス改善活用ガイド	
ガイド類	プロセス改善ナビゲーションガイド ~なぜなに編~ ~プロセス診断活用編~ ~ベストプラクティス編~ ~虎の巻編~	
	SPEAK-IPA アセスメントガイド	プロセス改善ナビゲーション ~自律改善編~
ツール類	アセスメントモデル SPEAK-IPA	SPINA ³ CH (スピナッチキューブ) 自律改善メソッド
	プロセス改善推進者入門	
教育 (教材)	アセスメントモデル活用コース	スピナッチキューブ活用コース
	アセスメント活用コース - 準アネッサ (ベーシック) コース - 準アネッサ (アドバンス) コース - 適格アセッサコース	
事例	プロセス改善セミナー事例紹介	
	ベストプラクティス事例	

□ 今回発表/改訂 □ 既に発表済

図 2 これまでの成果と 2012 年度公開資料

組織 / プロジェクトの診断を行う時に役立つガイド、アセスメントシート、テンプレートなどを充実させた。

- ・ 経験の浅い改善推進者がアセスメントを実施するときの手引きとして「アセスメントガイド」を作成。
- ・ アセスメント実施時に使用するアセスメントシート、インタビュースクリプト例の他、幾つかの場面で使用するプレゼン資料をテンプレートとして提供。

(3) SPINA³CH 自律改善メソッドの改訂骨子

SPINA³CH 自律改善メソッドでは、実証実験で明らかになった改善点を反映し、より自律的な改善に役立つよう内容を充実させた。

- ・ 取り組むべき問題に対する業務 (プロセス) の選定をより分かり易くするため、一覧形式からマップ図に変更。
- ・ ツールの使い方や活用方法を解説した書籍「プロセス改善ナビゲーションガイド~自律改善編~」を刊行。

また、中小組織向けのプロセス改善を検討している国際規格ワーキンググループ (ISO/IEC JTC1/SC7/WG24) へ「SPINA³CH 自律改善メソッド」の考え方をまとめて規格化 (テクニカルレポート) 案を作成し、提案した。

(4) 普及活動

2012 年度は SEC セミナーを始め、SPI Japan 2012 の企画セッション参加など外部団体での普及・啓発も行った。プロセス改善は、組織活動そのものであり継続的に実施してこそ成果が得られるものである。これまでに公開してきた成果物が活用され、IT にかかわる多くの人たちとその組織が発展することを期待している。

今回報告した活動内容は、産学界から参画いただいている委員の皆様により推進されてきた。当領域を取りまとめていただいていた当領域の部会長である元富士通株式会社の村上憲稔領域長、東京海上日動システムズ株式会社の菊島靖弘副領域長をはじめ多くの委員の皆様へ、この場を借りて厚く御礼を申し上げる。

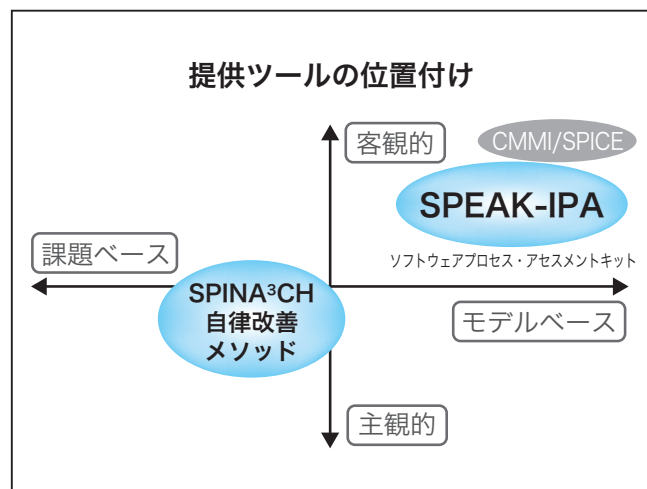


図 3 SPEAK-IPA と SPINA³CH の関係